



こんにちは  
町長です

## 令和8年度一般会計予算について

令和8年度がスタートして、1ヵ月が経過しました。令和8年度一般会計予算に計上した主な事業については、小鹿野町広報4月号に掲載しましたのでご覧いただいたかと存じます。予算規模は76億6千8百万円で前年度比8億4千1百万円の減、率にして9.9%の減となっています。減額の主な要因は、小学校・中学校体育館の空調整備工事や文化センターの照明工事などの大きな工事が終了したことなどによるものです。

小鹿野町予算規模は、秩父圏域4町の中で比較しても特に大きな予算組みとなっており、町は沢山の事業を有し執行しております。それだけ町民の皆さんに町のサービスが還元されていることをご理解をいただきたいと存じます。

町予算の歳入の一番大きなものは、地方交付税交付金30億3百万円で歳入全体の39%を占めています。皆さんからお預かりする町税は11億4千35万7千円で15%となっています。この地方交付税交付金は全国の地方自治体が一定水準の行政サービスを提供できるよう、国が財源を保証し、地域間の財政力格差を是正することを目的としているものです。

令和8年度では、次の3つの視点を重点戦略として取り組んで参りたいと存じます。1つめは「稼ぐ視点(ひと・モノ・金・情報)に基づいたまちづくりの推進」で、人

口減少が進行する中でも力強い地域経済の確立を図ることが重要であり、農林業や商工業、観光業の振興及び物価高騰対策に取り組めます。

2つめは「若者、女性に選ばれるまちづくり(子育て支援・定住・移住)の推進」で、活力ある地域を維持していくためには子ども達の元気な声が必要です。将来のまちづくりの原動力となる「若者、女性」に焦点をあてた施策を引き続き推進するとともに、新たな住宅用地の整備や町営住宅の建て替えなど、若者の定住・移住を促進し、いつまでもこの町で暮らし、子どもを産み、子育てができるよう取り組みます。

3つめは、「未来を見据えた基盤整備(DX・防災・生活環境整備)の推進」です。デジタル社会の恩恵を受けることが出来るDXの推進や多発する自然災害に備えるための対策や防災拠点である役場へのアクセス道路を整備するほか、急速に進む公共施設の老朽化の対応など、町民が安心して暮らせるための町の基盤整備に取り組めます。

これらの3つの視点に基づく施策を推進するため、役場組織の機構改革も実施し、持続可能なまちを目指して町民と一体となり町政運営に努めて参りたいと存じます。

小鹿野町長 森 真太郎